桜島大根産地復活に向けた取り組み

所属名　：鹿児島地域振興局農政普及課
発表者名：稲森　修二

＜活動事例の要旨＞

桜島大根は，全盛期で200ha栽培されていたが，現在８haとなっており，産地維持・拡大が大きな課題となっていた。課題解決に向け，在来種の課題である根の不揃いや空洞症等の発生を克服するため，県育成新品種「桜島おごじょ」の導入・普及を図り，商品化率の向上，栽培面積拡大に伴う新たな販路拡大等に取組んだ。

その結果,「桜島おごじょ」の栽培面積拡大，全量基肥施用技術確立，新規加工品開発，新規販売取引の実施，新規栽培者の確保等につながり産地に活気が出てきた。

１　計画された活動の課題・目標と策定過程

(1)　課題・目標と設定理由，及び活動の内容と方法

在来の桜島大根は，安定した品質を発揮できず，加工業者のニーズに対応できないことから取引価格が低く設定される等課題を抱えていた。そこで，桜島大根に関わる栽培者，関係機関・団体，販売団体，県試験研究機関，大学，加工業者，専門家と連携して，県育成新品種「桜島おごじょ」の栽培技術確立や導入・普及による商品化率の向上，栽培面積拡大に伴う新たな加工品開発や青果を含めた販路拡大，新規栽培者の確保等に取り組むこととした。

(2)　計画の策定過程

市，農協，農政普及課で振興に向けた体制，課題，対策等検討・整理

↓

栽培から販売まで桜島大根に関わる組織等で課題の共有化と対策検討

↓

○課題：在来種の根の不揃いや空洞症等の克服，栽培面積拡大に伴う販路開拓・拡大
○対策：県育成新品種「桜島おごじょ」の生産技術確立・導入・普及，新規加工品の開発，マッチング等による新規販売取引の開始
○普及計画での位置づけ：桜島大根新品種の面積拡大及び販売促進支援（調査研究）

２　普及活動の内容

(1)　活動の経過

ア　推進体制の整備（調査研究）

・栽培から販売まで桜島大根に関わる組織等で構成する推進検討会（コンソーシアム）を設置し，産地維持・拡大に向けた課題と対策を整理，実践した。

イ　栽培技術課題の整理と対策（調査研究）

・現地採種ほを設置し，採種技術確立や種子確保等に取組んだ。

・平成28年度発生した裂根の課題対策を整理・分析し，播種期を当初の「８月下旬～９月中旬」から「９月中旬（10日頃）～下旬」に改定した。

・高齢化対策として，慣行の追肥施用技術を改善し省力化を図るため，緩効性肥料による全量基肥施用技術実証試験を継続して行った。

ウ　栽培者・加工業者への品種特性等説明会の開催

・桜島大根栽培者を対象に,「桜島おごじょ」の講習会を継続して実施したことで，品種特性や栽培技術等が認識された。

・桜島大根加工業者や取扱い希望加工業者を対象に，品種特性や機能性の説明会を開催し，販路拡大を図った。

エ　新規加工品の開発，ＰＲ支援

・新規加工品開発希望者と大隅加工技術研究センターが面談する機会を設け，センターからの支援を基に新規加工品開発に取組んだ。

・鹿児島大学の機能性分析に必要な原材料提供を定期的に行い支援した。

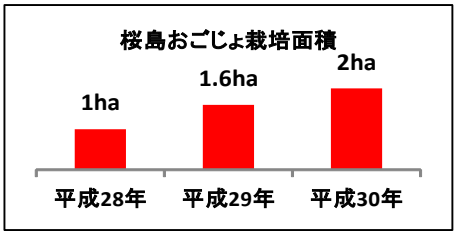
オ 栽培者・加工業者とのマッチング実施
・販路拡大希望生産者と加工業者が面談する機会を設けたことで，具体的な取引き検討が実施された。
カ 新規栽培者の確保・育成
・市農林事務所，農協，農政普及課担当者で毎月新規栽培者を訪問し，栽培ほ場の選定や土壌診断に基づく施肥改善，適期栽培管理等継続して支援した。

＜生産者への講習会＞

(2) 指導・支援の体制
・桜島大根に関わる生産から販売までの組織によるコンソーシアムを形成し，「桜島おごじょ」の栽培技術確立や商品化，販路拡大に向けた検討を実施した。

3 普及活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因
ア 推進体制の整備
・桜島大根に関わる生産から販売までの組織等による体制が整備できた。
イ 桜島おごじょの導入・普及
・現地採種ほを平成28年度から設置し，平成30年度は12万粒（２ha分）の種子を確保できた
・生産者に品種特性が認識され，栽培面積が拡大した。



＜栽培面積の推移＞

ウ 栽培技術の確立
・播種期を改定し実践されたことで，裂根の発生が無く計画的に出荷できた。
・緩効性肥料を用いた全量基肥施用技術実証ほの結果から，根重，品質等が慣行とほぼ同等であり，現地導入が可能であることが分かった。
エ 販路拡大
・新規加工品２品（せんべい，真空フライ）が作成・販売された。
・生産者と加工業者とのマッチングにより，新規販売取引が開始された。
・鹿児島大学の研究により，血管機能を改善する成分を多く含有している等の機能性が解明された。情報を加工業者がＰＲし，加工品が完売する等売上げに貢献した。
オ 新規栽培者の確保・育成
・定期的に支援したことで，安定生産が図られ，継続して栽培し定着につながった。
(2) 活動に対する生産者・農家の評価
・「桜島おごじょ」を導入したことで，品質が安定し，取扱い業者から根の形状の不揃いや空洞症等のクレームが無く，高評価を得ている。
・今後も引き続き栽培し，所得向上につなげたい。
(3) 地域農業振興への貢献
・新品種「桜島おごじょ」の導入を基に，栽培者の意欲が高まり，産地に活気が出てきたことで，桜島大根の産地維持・拡大が期待できる。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題
・桜島大根産地維持・拡大に向けた推進体制の継続
・桜島おごじょの普及
・桜島大根の販路拡大
・新規栽培者の確保・育成
(2) 今後の活用に向けて
・今回形成した推進体制を継続し，「桜島おごじょ」の普及等を基に，桜島大根の産地維持・拡大を図る。